



新米主婦の憂鬱 ～ 主婦目線のビオトープ ～

記者：河野登子（会員）

【 Vol.1 地産地消とは言うけれど… 】

社会人10年、仕事ばかりの毎日が一転。まさかまさかの専業主婦。2歳の一人息子をドタバタ育児中のまだまだ新米主婦&新米母。平成18年の夏、福岡へ移り住むも1年半後、またもやまさかの転勤で熊本に。ここ2年、初めてのことばかりで、すっかりビオトープからかけ離れた生活に。…ん？いやビオトープは全てとつながっている。そう！？ならば主婦目線で、ビオトープを感じよう！ということで、日常生活で感じたことを執筆…というか半分愚痴かな。

前置きが長くなりましたが…、今や地産地消は当たり前？ スーパーには地物を並べるコーナーが当たり前のように設置されています。少し前ですが問題となった中国のギョーザ事件や国内での産地偽装で、ますます『これって、どこ産？』と確認しながら買物するように。そんな風に気にしながら買物しておりますと、ほんとに外国産って、安っ！！ 思わず手に取ってかごの中へ。

例えばこんな感じ…（金額はおおよそ、販売店、商品、季節等々により異なります。）

ブロッコリー	（アメリカ産）100円/株	（国産）250円/株
生シイタケ	（中国産）100円/パック	（国産）300円/パック
干しシイタケ	（中国産）40円/10g	（国産）100円/10g
分かりやすくするため10g当りに換算		
白ネギ	（中国産）100円/束	（国産）200円/束

などなど…。

一品だけを見ると、それぐらい何とかなるでしょっ！、となりますが、これが複数品、そして毎日のこととなると頭が痛い。思わず手に取った外国産はそっと戻して、できるだけ九州産のものを買うように心がけてはいますが…。中毒事件があったからこそ産地を気にしている人も少なくないはず。本音は価格優先ではないのでしょうか？ 『地産地消』を叫ぶなら、やはり価格の見直しが重要？？ 食べ物は健康に直結するから『安全・安心』のために高価でもやむなし…これってやっぱり経済的にゆとりがなくなっちゃキツイですよ。皆さんはどこまで地産地消にこだわりますか？

ビオトープ・サロン 会員紹介コーナー

記者：編集担当

突然に変異？…進化？…するビオトープ・ニュース！…です。…この度、会員を紹介するコーナーをとの提案がありました。今後は、息抜きを兼ねて、時々、会員を紹介していきたいと思えます。

当会のメンバーは、シャイで、控えめで、奥ゆかしく…？、自己アピールが苦手です(私も)。でも、頼もしい面々です。そんな中で、母は強し！…トッパッターは、言いだしっぺの(旧姓:佐藤)登子ママからのメッセージです。

次回は？…奥ゆかしい面々ということで、自己紹介を済ませた者には、次回紹介者の指名権を付与します。心の準備をよろしく！

【河野登子(コウノトウコ)のプロフィール】

徳島市出身 / 熊本市在住 / 職業：主婦 / A B型 / 天秤座 / 小さい夢：息子とキャッチボール

こんにちは！ 慣れ親しんだ徳島を離れ、福岡、熊本と移り住み、現在2歳の息子を育てています。午前中、お天気がいい日は公園で2時間みっちり遊び、楽しそうな息子とは裏腹にふらふらな私です。

そんな毎日を過ごしながら気になったことを並べ、自己紹介とさせていただきます。

ビックリ 公園を散歩していると白い花のタンポポを発見！初めて見たので驚きました。恥ずかしなから知らなかったのですが、おそらくシロバナタンポポだと思います。

オォ～ 少し前ですがWBCに大興奮！日本の小技野球が世界の頂点に！！

トキ(時) 1時間、1日、1週間、1ヶ月、1年…。あっという間に過ぎ去る時間。ポーっと過ごした時間も勉強した時間も過ぎれば同じ。ならば有意義な時間にしたい！とは思っているのですが…今日もなんとなく過ごしてしまったダラダラな私…。

- …ん？ 最近の経済対策にまったあ～！！「エコカー減税」「エコポイント制度」景気対策や地球温暖化対策として、エコカー、省エネ家電への買い替え促進ですか…ますます廃棄物が増えますね。「高速料金休日特別割引」もいかがなものでしょうか？

プロジェクト 人生で最大のプロジェクトを遂行中。それは…「子育て」。答えのない育児に日々奮闘しながら親に感謝、感謝。でも「子育て」って…実は自分を育てているのですね。

県外ということもあり、なかなか積極的な活動参加とはいきませんが、皆さんについていけるようがんばりますので、よろしく願います。

特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)

記者：犬伏潔（会員）

【環境省ホームページ（<http://www.env.go.jp/nature/intro/>）より転載】

私たちの周りには多くの生き物たちがいます。彼らは長い地球の歴史と共に進化し、多様ですばらしい生態系を生み出すに至りました。彼らは、それぞれの移動能力に応じて、また、地形や気候などの偶然によって現在の分布域に定着してきましたが、近年人間の移動能力の飛躍的な向上に伴って、人間の意図する・しないに関わらず、人間と共に移動する機会を得ました。

本来の分布域ではない場所に連れてこられた生き物の多くは適応できず、そこで子孫を残すことができません。しかし、まれに本来の分布域ではない場所でも定着し、子孫を残すことができるものもいます。これらの中には、人間生活や生態系に大きな影響を及ぼすものもいます。

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（以下「外来生物法」と言います）は、このような生き物による、人間生活や生態系への悪影響をなくすことを目指して制定されました。

外来生物は人間生活と密接にかかわりを持っていることが多く、その問題は日常生活に密着した問題であるため、国民の皆様一人一人の理解と適切な対応が求められています。

外来生物被害予防三原則～侵略的外来生物による被害を予防するために

1. **入れない**～悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない
2. **捨てない**～飼っている外来生物を野外に捨てない
3. **拡げない**～野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない

すなわち…生態系等への悪影響を及ぼすかもしれない外来生物はむやみに日本に「入れない」ことがまず重要で、もし、すでに国内に入っており、飼育（栽培）している外来生物がいる場合は野外に出さないために絶対に「捨てない」ことが必要で、野外で外来生物が繁殖してしまっている場合には、少なくともそれ以上「拡げない」ことが大切というものです。

特定外来生物に指定されたものについては、**飼育、栽培、保管及び運搬することが原則禁止 輸入することが原則禁止 野外へ放つ、植える及びまくことが禁止等** の項目について規制されます。

今後も機会を見て、掲載したいと思いますが、環境省ホームページやリンク先にわかりやすく解説されています。詳しくは、「<http://www.env.go.jp/nature/intro/>」をご参照ください。

ビオトープ・ナビ Q&Aコーナー

記者：犬伏潔（会員）

【Q（質問）Kさん】

外来生物法に違反したらどうなるのですか？

【A（回答）環境省ホームページより抜粋】

特定外来生物は、たとえば野外に放たれて定着してしまった場合、人間の生命・身体、農林水産業、生態系に対してとても大きな影響を与えることが考えられます。場合によっては取り返しのつかないような事態を引き起こすこともあると考えますので、違反内容によっては非常に重い罰則が課せられます。以下にその一部をご紹介します。

個人の場合懲役3年以下もしくは300万円以下の罰金 / 法人の場合1億円以下の罰金に該当するもの

販売もしくは頒布する目的で、特定外来生物の飼養等をした場合 偽りや不正の手段によって、特定外来生物について飼養等の許可を受けた場合 飼養等の許可を受けていないのに、特定外来生物を輸入した場合 飼養等の許可を受けていない者に対して、特定外来生物を販売もしくは頒布した場合 特定外来生物を野外に放つたり・植えたり・まいたりした場合

個人の場合懲役1年以下もしくは100万円以下の罰金 / 法人の場合5千万円以下の罰金に該当するもの

販売もしくは頒布以外の目的で、特定外来生物の飼養等又は譲渡し等をした場合 未判定外来生物を輸入してもよいという通知を受けずに輸入した場合

ビオトープ・ナビ 雑学コーナー

記者：榎本幸実（会員）

【すみわけ・くいわけ】

1) 棲む場所が違う生き物

・カブトムシは落ち葉や堆肥で育ち里の若い林に、クワガタは朽木で育ち山間の古い林に。
 ・水中と陸の両方を必要とする生物（ホタル・トンボ）や水深によって棲み分ける植物（中水植物・浮葉植物・沈水植物・浮遊植物）など、自然は優れもの。

2) 食べ物が違う生き物

・水面で採餌するカモ類の内、カルガモ・マガモ・オシドリ：イヌビエ・イネ・マコモ・スゲ類・タデ類・ヒツジゲサなどの水面上又は陸上の植物 / コガモ・ヒドリガモ・オナガガモ：ヒルムシロ・エビモ・トチカガミなどの水面に近い水生植物 / オナガガモは長い首を持ち他のカモが届かない深さの水草を、ハシビロガモは嘴の中が櫛状になっていて動物プランクトンを濾しとって食べる。
 ・水面下に潜水して採餌するカモ類の内、ホシハジロ・スズガモ・ホオジロガモ：クロモ・イバラモ・セキショウモなどの沈水植物 / ミコアサイは主にエビ類を、キンクロハジロはタニシやカワニナなどを、カワアイサやカイヅブリ・カワウは主に魚類を食べる。

「すみわけ」も「くいわけ」も、人間社会、現代社会では難しそうです。河野さんの「地産地消とは言うけれど…」正にそうですね。かつては、人間社会も地産地消だけでなく、旬産旬消でもあったはずですが。省エネやフードマイレージが問われる現在、地産地消・旬産旬消のための社会経済のシステム変革が必要のようです。

編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集：榎本幸実